

2017 年 10 月 8 日(日) 14:00~15:00 タワーレコード渋谷店 7F イベントスペース (解説: 宮澤 淳一)

## トーク&試聴イベント 目で耳で楽しむグレン・グールド~ゴールドベルク変奏曲 1955

グレン・グールド/「ゴールドベルク変奏曲 コンプリート・レコーディング・セッションズ 1955」発売記念

### ●グールドの回想 その1 (1970 年代末頃)

「最初に何を録りたいの？」彼 [コロムビア・レコードの重役] は尋ねた。  
 「《ゴールドベルク変奏曲》です。」私は答えた。  
 「賢明な選択だろうか？」彼は大胆にもそう言った。「結局みんなランドフスカを引き合いに出すだろう？ その挑戦はあとまわしにした方がいい。《二声のインヴェンション》の方がデビュー盤に向いていると思わないかね？」

「《ゴールドベルク変奏曲》の方がいいです。」私は譲らなかった。

「本気かい？ よし、わかった。チャンスをやろう。」

(「親友の言葉」, 宮澤淳一『グレン・グールド論』(春秋社, 2004 年) 所収, 467 頁より一部改変)

※1955 年録音のシンフォニアは、第 8, 9, 15 番のみ 2005-6 年にリリース

### ●レコーディング・セッションの進行 (ニューヨーク 30 丁目スタジオ, 1955 年 6 月) ▲

(6 月 6 日(月): 録音テスト?) (6 月 8/9 日(水/木): シンフォニア(三声のインヴェンション))

6 月 10 日(金): アリア, 第 1 変奏~第 12 変奏 (+シンフォニア)

6 月 14 日(火): 第 12 変奏~第 24 変奏

6 月 15 日(水): 第 23 変奏, 第 25 変奏~第 26 変奏 (+シンフォニア)

6 月 16 日(木): 第 7 変奏, 第 23 変奏, 第 27 変奏~第 30 変奏, アリア

※第 16 変奏は、前後半ともに反復のための“1 番カッコー”が省略されるため、楽譜では前半=第 1~15 小節、後半=第 17~47, 50 小節と数える(欧文解説書 p.162)

### ●最終的に採用されたテイク一覧(下線はそれぞれのファイナル・テイク) ▲

アリア	リメイク・テイク 11A	CD5[39]	第 16 変奏	前半=テイク 2	CD3[34]
第 1 変奏	テイク 3	CD1[09]		後半=インサート・テイク 3	CD3[37]
第 2 変奏	テイク 13	CD1[41]	第 17 変奏	前半=テイク 4	CD3[41]
第 3 変奏	テイク 3	CD1[45]		後半=インサート・テイク 5	CD3[46]
第 4 変奏	テイク 9	CD1[58]	第 18 変奏	テイク 11	CD4[12]
第 5 変奏	前半=テイク 9	CD1[68]	第 19 変奏	テイク 5	CD4[19]
	後半=テイク 3	CD1[62]	第 20 変奏	テイク 3	CD4[23]
第 6 変奏	テイク 16	CD2[17]	第 21 変奏	テイク 6	CD4[32]
第 7 変奏	前半=リメイク・テイク 7	CD2[31]	第 22 変奏	テイク 4	CD4[37]
	後半=リメイク・テイク 5	CD2[29]	第 23 変奏	前半=テイク 9	CD4[47]
第 8 変奏	テイク 3	CD2[37]		後半=テイク 4A	CD4[42]
第 9 変奏	テイク 9	CD2[46]	第 24 変奏	テイク 12	CD4[70]
第 10 変奏	テイク 2	CD2[49]	第 25 変奏	テイク 1	CD5[01]
第 11 変奏	テイク 8	CD2[60]	第 26 変奏	テイク 5	CD5[09]
第 12 変奏	前半=テイク 11	CD3[12]	第 27 変奏	テイク 4A	CD5[14]
	後半=テイク 18	CD3[19]	第 28 変奏	テイク 1	CD5[15]
第 13 変奏	テイク 5	CD3[24]	第 29 変奏	テイク 1	CD5[19]
第 14 変奏	テイク 2	CD3[26]	第 30 変奏	テイク 6	CD5[26] (指示書は誤記)
第 15 変奏	テイク 5	CD3[31]	アリア・ダ・カーボ		
			リメイク・テイク 3	CD5[30]	

### ●グールドの回想 その2 (1966 年)

「バッハの《ゴールドベルク変奏曲》を録音したとき、私は主題を迂回しました。変奏曲全体の基礎であるたいへん簡潔なアリアです。すべての変奏を満足な形でテープに録り終えるまでは手を着けませんでした。かくして私は、あのあどけない小さなサラバンド [主題のアリア] に戻りましたが、結果としてテイクを 20 回録り直すことになりました。それは、アリアのあとで作品が複雑になっていくことが事前にわからないような、まったく特徴のない性格をアリアに与えるためでした。テイクを 20 回録ったのも、私がアリアから読み取ってしまった不必要な表情をすべて消し去るためでしたが、これほど難しいことはありません。演奏家の自然な本能とは何かを加えることにあるのであって、減らすことではないのですから。とにかく、私が《ゴールドベルク変奏曲》のレコードに用いた主題は、テイク 21 でした。」(“On Records and Recording,” *The Art of Glenn Gould* no. 1, radio broadcast, CBC, November 13, 1966; re-broadcast, April 30, 1967) ※ジェフリー・ペイザント『グレン・グールド、音楽、精神』(原書刊行 1978 年), 宮澤淳一訳 (音楽之友社, 2007 年), 86 頁より一部改変。

### ●グールドにとっての《ゴールドベルク変奏曲》のイメージ (本人の曲目解説より)

「要するにこれは、終わりも始まりもない、真のクライマックスも真の解決もない音楽、ボードレールの恋人たちのように、“気ままな風の翼にそっと休らっている” 音楽なのである。」

(Notes for Columbia ML5060)

※ (1932 生) → 1955 GV 録音 → (1964 演奏会引退) → (1982 没) ⇒ 2017 = 生誕 85 年/没後 35 年

## ●グールド、クオドリベットと即興について語る

(CD5 [21], 欧文解説 pp.195, 197, 日本語版ブックレット 13 頁より転載)

グールド：いいですよ。

スコット(プロデューサー)：ええと、これは何と呼ぶのかな？

グールド：クオドリベット、テイク 2！

スコット：何だって？

グールド：だから、「クオドリベット、テイク 2」です。

スコット：違う、「第 30 変奏のテイク 2」だよ。

グールド：この変奏のことをご存じないんですね、クオドリベットを。これはバッハ時代のドイツ民謡を組み合わせたものです。

スコット：へえ、知らなかった。

グールド：そうなんです。だから今、クオドリベットと呼びました。居間に集まり、同じ和声で民謡を重ねて歌うのがバッハ家でよくやられていたのです。ここでの旋律は——ドイツ語の名前を忘れましたが、とにかくどちらもとても下品な歌です。ひとつは、こんな感じで——（弾く）——、もうひとつは——（弾く）——

スコット：ああ、今知ったよ。2つの歌が含まれていて、ひとつは〈長い間会わなかったな。さあ、そばへおいで〉で、もうひとつは〈きゃべつとかぶらに俺らは追い払われた〉だ。

グールド：そうです。ところで、私もクオドリベットを作りまして、先日の夜、浴槽に浸かっているときに思いつきました。いずれ 7 月 4 日 [独立記念日] に招かれてコンサートをやりますよ。

〈星条旗〉の反復を省略し、〈ゴッド・セイヴ・ザ・キング〉の第 13 小節から入る。それから〈ゴッド・セイヴ・ザ・キング〉をもう一度弾いて、その後半で和声を変えて、2 度上に転調する [※注：実際には転調していない]。そこはたいへん効果的です。聴いてください。〈キング〉の途中から始めて、そのあと〈星条旗〉が入ります。——（弾く）——あいにく最後はオクターヴで重ねちゃいましたが、これはこれで美しいでしょう？

スコット：お見事。

グールド：すごいでしょ？ これまで誰も思いつかなかったのが不思議なくらいです。

スコット：確かに。しょっちゅう耳にしてもいいくらいだ。

グールド：それじゃあ、「クオドリベット、テイク 2」、いきましょう。

スコット：グレン、テープを換えた方がいいようだ。今気がついたんだが、2 分くらいしか残っていないから、途切れちゃうかもしれない。ちょっと待ってくれ。(宮澤淳一 訳)

## ●ニュース

・新刊書：Peter Goddard, *The Great Gould*. Toronto: Dundurn, 2017.

・イベント：グレン・グールド・ギャザリング

キュレーター：坂本龍一

2017 年 12 月 13 日（水）～17 日（日）

草月会館、カナダ大使館（オスカー・ピーターソン・シアター）

<http://www.gggathering.com>（随時 最新情報をご確認ください）

※その他の動きは、グレン・グールド財団ウェブサイトへ <http://www.glenngould.ca>